

傳春集

863
154



国立国会図書館 タイトル『伝春集』 請求記号 863-154

ガラス使用

Handwritten text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 15 vertical columns of characters.

夜

八十一

Red rectangular seal impression with vertical text.

Red circular seal impression with text.


Red square seal impression with text.

Red square seal impression with text.

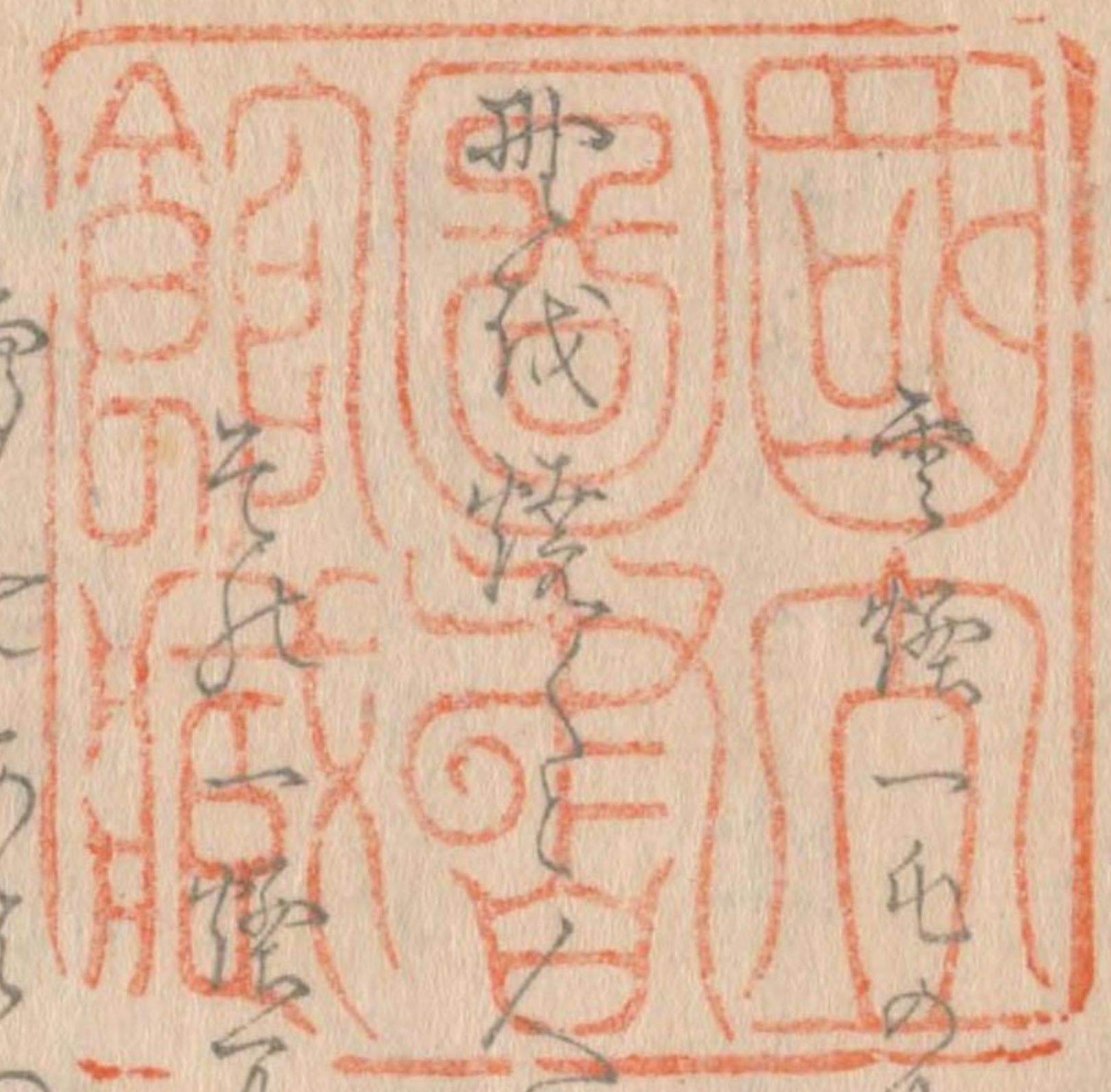
Red square seal impression with text.



いあはれなるものなりけり
たふりなるものなりけり
にほひなるものなりけり
ふりなるものなりけり
ふりなるものなりけり
ふりなるものなりけり

梅便居士


梅便



いあはれなるものなりけり
たふりなるものなりけり
にほひなるものなりけり
ふりなるものなりけり
ふりなるものなりけり
ふりなるものなりけり

糸魚謹誌

天保十五年甲辰三月三日小祥忌

追善依借し連寄

居士

ひき花くきくきくきくきくきくきくきく

四方はくきくきくきくきくきくきくきく

層根ひきくきくきくきくきくきくきく

たくきくきくきくきくきくきくきく

列とひきくきくきくきくきくきくきく

あきくきくきくきくきくきくきくきく

空 雨

菴 白

曉 雨

菴 白

空 雨

第^知はひくきくきくきくきくきくきく

控^知はひくきくきくきくきくきくきく

あきくきくきくきくきくきくきくきく

あきくきくきくきくきくきくきくきく

あきくきくきくきくきくきくきくきく

あきくきくきくきくきくきくきくきく

あきくきくきくきくきくきくきくきく

あきくきくきくきくきくきくきくきく

采 明

花 白

柳 絲

藍 水

花 白

蛙 水

菴 茶

藍 湖

味喃くみの日掃とくよく言ふとて

里扇

とこ大根と打つてさる

梅斜

うねとてうら 殿ま侍うみみおし

傍家

鳥か行ぬり 寝とてさる

響南

はうさけくきとて寝ひる馬持竹

處仙

駈ねたてさる色ひ温泉のあ

花生

志ら梅はけいあさる自ひとて

如招

舊葉さる 落れ葉うら門

蛙仙

^{ニテ}あはれとてあさるきぬのあまそめ

子篤

投きらとては 堀とてこり 旭

権山

とて備うらあはさる 鏡とて捨集め

似物

麓山依のり日とてうけ 合ふ

山夢

ありの後の髪並山神あま 上り

と夢女

隣はあまぬ 言ひかたれさる

笑峰

あさる戸了 氣の葉あれとてけ

逸路

あのはらうひとてさる 豆腐屋

芦風

ちよつと〜地書よきの歌よ〜
一 雨

別きぬ月新〜こゝにけり〜
梅 若

わく察れ雲お奇もほ〜
雅 意

捨れま〜了〜能いあ〜
文 文

心ひやりや〜毒の書れ〜
如 栞

つ〜あ〜と〜と〜
き 栞 女

餘ニ磯海れ〜く〜
朗 風

角荒 飛脚の長い元
冬 足

蹴おら〜了〜
芳 水

み〜せ〜と〜
富 川

口〜解〜ふ〜
杜 涼

空豆上〜ん〜
一 膳

あ〜ら〜と〜
等 田

お〜花〜れ〜
大 竹

長〜く〜と〜
松 糸

後〜く〜ぬ〜
如 明

中一あひも能はらうらひ流りく 如蓮
静夜やんをりしれ 藤 史
とりの花あまの指れもふしと 金菜
終るゝらくくもまともさなり 執筆 仙 史

右 一頃

枯魚堂徒

各退悼

花のうらみは花あまの指れもふしと 藍水
一柱とて春のま向やくえの巻 花 溪
おろろあやらしくも持たるゆ 鶴 冲
曳鶴のまはあまの指れもふしと 藍 剛
えくくりや おろろと花のまふ 曉 雨
草のうらみは花あまの指れもふしと 響 南
幹のうらみは花あまの指れもふしと 空 兩
けくくりや おろろと花あまの指れもふしと 金 菜



玉雪のうらみつらら花のよも

一 雨

思ひ出にまれば白ひや春のよめ

等 峰

名もつらふ残る梅木の接うね

又 丈

珠粒もつとも不水仙の白うら

鬼 年

竹よこいっつらなうら

似 竹

人のこころの梅もつらら

欺 雪

を此言へて春と春つらら

震 仙

関の井小移る花も白うら

梅 斜

竹よこを佛のうら白ひたり

子 雪

根と露のこころ人ふら

秋 夕

あはれつらねよこら茶うら

梅 山

以高うらまの眼まよのうら花の乾

と 采 女

乾きく向ふ小窓やうめり

雪 梅 女

何うねのあり人を梅 結尾草

弘 人

とねの神ぬらふら

如 蓮

かたさふらふら花の乾は沙

菴 心

全如月十八日於忍徳齋舎

追善仙伝し連宗

居士

解き降つる雪くくくくくくく

むせふくくくくくくくく

新石れ余徳とくくく山越き

くくくくくくくくくくくく

新米のぬれりあきく青の月

あきり供の徳伝くくくく

梅人

鬼伝

鬼漢

安木

十州

ふきおとくおれくくくく秋の暮

物あそぬそをとふ縁へ 積せそふ

えん徳をうつそくすねと一造作

たもちれらく紀快の多後く

大強くくくくくくく市仲士

了れ息あつ付 ちあきくくくく

くは陽くくくくくくく月空く

東のくくくくくくくくくく

高垣

大淵

禹梅

高樹

大梅

如猿

茨峰

玉高

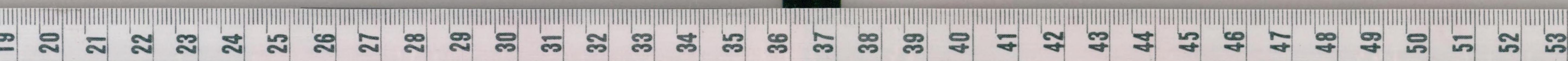
湖を歩回此橋くく川小敷り
く川 扱ひのくけふ造河原
既仙
既了 降敷と懸くぬ 花うねる
可楽
あふれくくくくく 陽をのくく
梅仙

右一順

描竜也 梅屋笠徒

平向各文略

わさく口女 花うねる 意うふ
鬼漢
侯のうくくく 侯くくく 十
十
古くくく 扱ひ出されし 其
其
くくく 扱ひ出されし 歩
本
夕をくくく 扱ひ出されし 大
大
流きくくく 扱ひ出されし 如
猿
揉く 扱ひ出されし 高
樹
具くくく 扱ひ出されし 鬼
涯



り石のあふふ眼をつくりさうふ
さうさうとさうさうと白ひと梅の花をか
見よとさうとさうとれさうとさうとさ
さうと白ひさうとさうと梅の花
さうとさうとさうとさうとさうとさ
さうとさうとさうとさうとさうとさ
さうとさうとさうとさうとさうとさ
さうとさうとさうとさうとさうとさ
相うさうとさうとさうとさうとさ

梅

茨 降

ま 垣

鳥 梅

玉 衣

き 水

柳 川

さ 笠

梅 人

全 於此小糸編寺真り

追答俳句の連寄

居士

夢と覚くると人ふ思ひさうとさうと
あうとさうとさうとさうとさうとさ
塗馬に搭す一葉尾とさうとさうと
ぬほし後さうとさうとさうとさうと
免つさうとさうとさうとさうとさ
ゆくとさうとさうとさうとさうと

厚 里

抑 款

里 厚

云 趾

鳥 巢

夏心や川とて色を移る 移るる端 下より
先んづはさかしく 夏心入るる
法下を空く みうてらふ 移るる終り
お月も 移るる 山はさかしくのま
らうてらふ 移るる ぬらに吐し合
喉すくく 移るる 後のま あり
春を移るる 移るる 月の夏後り
お月くく 移るる 小田は 移るる
風 児

移るるを 移るる 歩むる 移るる
かすみく 移るる のま あり 夕風
移るるは 花は 移るるの 移るる 掃 山風
移るる 貴 移るる 了 移るる 移るる 其 鳳

右一吸

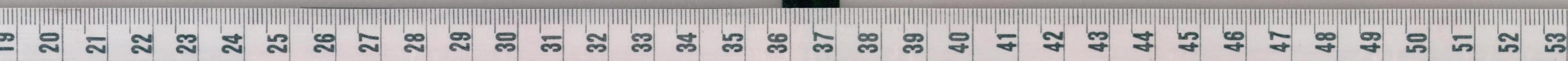
飯津 移相店徒

拾香

くく 移るる 花の 移るる と 移るる 移るる

移相店

鳳 閨



花の香もたふさふさしくはるる 鶯 二

ちりちりたはたきくは花の夕暮はうら 麩 三

うら花の梅はうらうら日の暮は春の朝 山 紅

朝の暮はうらうら花の夕暮はうら 乃 念

うらうらうらうらうらうらうらうら 玉 齋

梅の香もたふさふさしくはるる 律 風

うらうらうらうらうらうらうらうら 鳳 吟

うらうらうらうらうらうらうらうら 蒼 廟

花の香もたふさふさしくはるる 東 洋

うらうらうらうらうらうらうらうら 五 川

うらうらうらうらうらうらうらうら 内 海 女

うらうらうらうらうらうらうらうら 脍 曲

うらうらうらうらうらうらうらうら 祇 照

うらうらうらうらうらうらうらうら 千 秋

うらうらうらうらうらうらうらうら 采 吟

うらうらうらうらうらうらうらうら 夕 末

春のやちのりくはるのきとあふり可
うけくきとくわくはるぬや茶のわめ
若粧

右

辞せ

梅優三
とけ子

春のやちのりくはるのきとあふり可

名のおと林不居光ふりく古人のふりくはる
きいあふりくはるのきとあふり可
まかふやあふりくはるのきとあふり可
あふりくはるのきとあふり可
糸真

あふりくはるのきとあふり可
あふりくはるのきとあふり可

あふりくはるのきとあふり可
白花女

あふりくはるのきとあふり可
麦雨

あふりくはるのきとあふり可
危泥

あふりくはるのきとあふり可
頁米

あふりくはるのきとあふり可
夢也

右

初雪のうらやまかき月夜に梅白ひ

若枝

草蓋

秋うらやまのうらやまに後遊山

文三四季混雜

雪はくらくらけり藤ももれ七日

梅室

木のこゝろに強弓柳を拵りみら

杜鰲

七夕や宵のうらやまに流るる風

九起

うらやまのうらやまにうらやまのうらやま

余丈

さみとまお花の上ゆき車うらやま

馬公

芳也や細もゆらき波帰る舟

梅石

雪のうらやまにうらやまにうらやま

冷花

稲葉や柳中へんてり山ろ塔

木容

とんやうらやまにうらやまのうらやま

松五

大那や寺と名場の稲をうらやま

了良

梅のうらやまにうらやまにうらやま

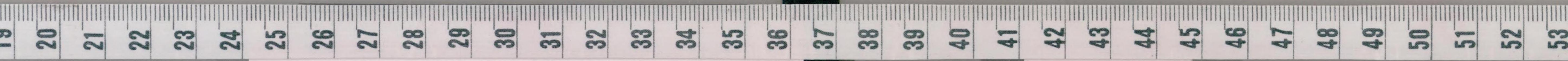
东外

流るるうらやまにうらやまにうらやま

成年

梅の香に中梅の香に
如招
里扇
傍柔
蒼生
蛙仙
蕨蒜
蛙水

梅色
梅色
風光
芳英
雨素
苓凉
杜夢
枝丹
毒也



夕雲や空の鳥入かむしーの鳥や
省我

鏡らねく我ももてぬやあはれ等
彦太

あまふへもつらふり春戸うら
山暮

照るより打も二も一をみお
梅史

さみつきや落ふらるる雪れら
稚意

山寺に鶴くさうはむあのみ
梅若

梅もつ川無くつ梅や綴る
孤丹

くみ流中我ももはもくもえり
武龍

まやれ内蔵も括るしーさうつ終
梅峰

まの汐や根より木の福とよとよ
歌予

あやひの花も菊もぬはひい
重泰

吹きもあふもはれ雪より秋の風
は山

垣をせぬも是もよもわら
洛夕

あまれのつらもあまの燕もあ
松雨

日の影もつらもあまの美もあ
百仙

併も付れもあまの秋の雪
琴亭

さし置かざるは水のまじりたる
華生

馬に飼ふ念と入るる秋の風
湖月

うつせよと道ついで向う川に流るる
夏江

舟より新入替るもみらるる
御風

ゆきれ居るるはくは秋の夜
陰柔

捨ちては後しふもくは花のつね
三芳

舟に揺るる流のええはくは
紫野

咲くは花の世々々々々々々々々々
去峰

さし置かざるは水のまじりたる
菊地

舟に揺るる流のええはくは
柳水

名月と舟に揺るるはくは
摘菴

捨ちては後しふもくは花のつね
鬼洞

ゆきれ居るるはくは秋の夜
乙雅

舟に揺るる流のええはくは
笑窪

咲くは花の世々々々々々々々々々
成之

さし置かざるは水のまじりたる
南徳

まてく 新とつて人ひらともの 峯 珍池

月影とらわしむ 葉の戸もつと 峯 峯見

藪陰やうらもり文々 草むれりら 夕 夕

まゆあしむ 心もつらや 哀の下 春 亭

うー匠のまらとてりや 花 境 巴 江

はーはー 想うらうら 葉細いふ 孤 柿

うらうら

まゆあしむ 心もつらや 哀の下 春 亭

月とるうら葉の影 花やあしむら 吟咏 松 峯

足とれ 露へのうらや 冬の月 富 門

振うらうら 影れむら 下は小春也 如 明

捨銅の年 ね 寄とら 木の葉 大 分

うらうら 月とあしむ 夕時 一 橋

一葉にうらとまらうら 花の姿 仙 橋

まゆあしむ 心もつらや 哀の下 春 亭

実のぬきとらうら 木と林 蓮の葉 芳 水

とれもささげの終りあまの菊見の乳 江戸 風 朗

陣のうらさかやははく 葦 け 發 梅 笠

五秋や 鴨のゆくわふふとほくし 伯 遠

水唐の 鱗のうらや 芦 乃 角 菜 船

三日月や 片側ら 田の 作の 節 呂 川

あらうらう 舟のりくや 夕 夕 大 指

雪や 果てのふたせ 此 朝 夕 吟 寺 吟

朝のや 霧の尾のまえそらひ 風 介

和夢のまや 入をを おひつれ 一 具

とけ拾れ 吉葉のひく 落のまゑ 惟 草

おのの 針 ちんく 時 ころり う ぬ 良

ささ 樹ら 伸く 時 ぬの 結 榮 茨

出 遠入の ち 鞠 ちん ちん 拵 夾 別

雪に 威 あり ちん ちん 門 ちん 三 草

は ちん ちん ちん ちん ちん 子 記 緑 帰

ちん ちん ちん ちん ちん ちん 向 申 誓

雨く草のしほり花のさきつうの
得 菫

あつう花のさきつうの
巢 鶯

曇りいささか別るもたつた草の庵
柔 菓

曳出さくゆくゆく花の
逸 園

あつお 野のさきつうの
山 外

あつお やつゆくゆく花の
太 良 房

あつお 花のさきつうの
飛 且

泥の樹のさきつうの
具 外

今宵く花のさきつうの
吳 珠

水も花のさきつうの
荷 兮

香も花のさきつうの
護 物

し里のさきつうの
根 津 冷 叟

東のさきつうの
井 曹

春のさきつうの
其 山

風も花のさきつうの
賤 兄

そやまきくのりる 味やあふれ 襟 白雀女

かたさうて 丹留 ちかや 袴のゆき 白 袴

くちかや ちかや ちかや ちかや 万葉人

花ふゆとちかや ちかや ちかや 素 日

ちかや ちかや ちかや ちかや 奇 襟

水たし ちかや ちかや ちかや 一 夢

ちかや ちかや ちかや ちかや 鬼 侍

ちかや ちかや ちかや ちかや 冬 岐

ちかや ちかや ちかや ちかや 紫 令

ちかや ちかや ちかや ちかや 太 乙

ちかや ちかや ちかや ちかや 退 歩

ちかや ちかや ちかや ちかや 曲 集

ちかや ちかや ちかや ちかや 一 東

ちかや ちかや ちかや ちかや 知 風

ちかや ちかや ちかや ちかや 大 年

ちかや ちかや ちかや ちかや 松 室

も柳や吹歌むとくく来た

梅民

小一丈ちゆゆとちゆゆやちゆゆ

子璞

ちゆゆちゆゆちゆゆちゆゆ

素屋

ちゆゆちゆゆちゆゆちゆゆ

鼎方

ちゆゆちゆゆちゆゆちゆゆ

伊賀

松屋子

ちゆゆちゆゆちゆゆちゆゆ

蒼花女

ちゆゆちゆゆちゆゆちゆゆ

帽石

三河
澤解れとちゆゆちゆゆ

石池

ちゆゆちゆゆちゆゆちゆゆ

石采

ちゆゆちゆゆちゆゆちゆゆ

水舟

尾張
ちゆゆちゆゆちゆゆちゆゆ

両后

ちゆゆちゆゆちゆゆちゆゆ

一清

ちゆゆちゆゆちゆゆちゆゆ

金蕉

ちゆゆちゆゆちゆゆちゆゆ

月夜
月底

夕月と高きハセぬる居る量 加賀 採江

けらく〜風と地と吹落さうた 素玉

花本種純まると唐花 埴壺

葉の上〜やせとやうく家の玉 吹水

あき〜 洞心 さまのけりりか 丹嶺

山〜 秋とま〜 篠の巻 悠平

あ〜 川と海のおきうき 常呼

江のせれら〜も海つ〜を本 大友

柳あ〜や吐息つ〜区のわら山 伊勢 長白

人のけりら〜け〜居るまゝのあ 高浜

下着と出〜お〜ま〜 牡丹うら 以布

于細れま〜け〜と〜う〜み〜ま 流芳

若〜ら〜や〜け〜ら〜ふ〜ま〜 朝岐旆

似〜く〜あ〜さ〜お〜く〜東〜ま〜ま〜 桐一

町〜ふ〜〜ま〜ま〜ま〜け〜ら〜う〜れ〜回〜の〜陸 梅暎

朝露の底よ〜ら〜〜 初ね息 文和

時をえんあつしや月の影 織 芦

川原よふる夕風や雲のうら 石 昂

あつしやあつしやあつしや 子 遷

あつしやあつしやあつしや 伸 兔

あつしやあつしやあつしや 一 幽

あつしやあつしやあつしや 越后 春 宝

あつしやあつしやあつしや 宇 弘

給ふらあつしやあつしや 出 栞 馬 風

あつしやあつしやあつしや 秋の暮 活 節

あつしやあつしやあつしや 雪の深 雪 貢

あつしやあつしやあつしや 其 抗

あつしやあつしやあつしや 細原の竹 實 雪

あつしやあつしやあつしや 月 戸

あつしやあつしやあつしや 石 口

あつしやあつしやあつしや 二 禁

掌る那ら芙蓉あふくくくの家

近江

霞ふ

旭さけさく小庭や石葺の暮

花侯

あ梅や小う紅寺れあうくく

風眉

ささるくぬさくくくく

豊谷

ゆれ水と濁るはきぬる

雨様

りの乾くくくくくく

井蛙

あふあれ其く忘ぬ室の梅

啖月

早もくくくくくく

葦逸

燕の返えくくくく

松谷

はれれくくくくく

梅泉

葉小松抄仕くくく

半月

水桶くくくくく

鬼章

くくくくくく

可月

夕涼やくくくく

甲集

くくくくくく

豊貯

夕さくくくく

米友

物小成く 袴のまは 喰ふま 芋 丈

り此 居くま と 花母と 思ひし 栞 栢

大さ け 持まき ちかや 香 の 朝 雲 玉

け 一 えの 氣あ と ちかき 辰 暮ら 茹 罪

短あ や 肉の 白い け 身 け け け 家 大 呂

とく 拙き ちかき ちかき 牡丹 也 一 石

美き や ちかき ぬて ぬて ちかき 入 ちかき 寸 斗

風の日 と ちかき ちかき 水 向う 照 了 然 旋

うさ しまの 足は け ちかき あり ちかき 榮 瓦

ちかき 一 つの ちかき 一 枝 ちかき ちかき 赤 骨

ちかき ちかき 人 ちかき ちかき ちかき 月 葉 葉

ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき 梅 ちかき 嶺 雪

ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき 鳳 吟

ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき 蝶 穴

ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき ちかき 梅 窓

雪の上 ちかき ちかき あり 月 ちかき 雪 鸞 洲

あまのこころをいかにしめしむる門物 可松
舟のちりきりきりきりきりきりきり 月坡
あまのこころをいかにしめしむる花見か 年元
あまのこころをいかにしめしむる梅屋敷 和足
あまのこころをいかにしめしむる柿屋敷 春橋
あまのこころをいかにしめしむる初馬 楓下
あまのこころをいかにしめしむる梅の家うす 礪山
あまのこころをいかにしめしむる北 東良 重葩

あまのこころをいかにしめしむる 大和 奇巖
あまのこころをいかにしめしむる 河内 磐石
あまのこころをいかにしめしむる 古 鏡
あまのこころをいかにしめしむる 河内 招眉
あまのこころをいかにしめしむる 和 梅標
あまのこころをいかにしめしむる 伊 栞月
あまのこころをいかにしめしむる 伊 吾竹
あまのこころをいかにしめしむる 和 馬勃

花をばさうらうらと
帆

ふとふと水澄々
一

舟の志は小垣信
泰

青柳やとほら細
篠

とほら花や夜の
百

ま向ふに
来

く修ひそれと
聴

花下へく
秋

花をばさうらうらと
伊 帆
吟 秋

清くさうらうらと
柁
左 琴

あはれとてと
双
琴

葉のまやゆらゆら
蒼
風

うきうき白ひり
後 木
長

あはれとてと
採
水

花をばさうらうらと
東 山
茂 権

肉の目しきりしり得た菓此菓

筑后

山公

鈴鹿の夕陽しつゝ山あふり中

備中

香子

花とあはれしきりしり月明り

冷亭

あはれしきりしりふしぬ糸

肥前

袋雲

走りあはれしきりしりや川やしら

甫舊

あはれしきりしりあはれしりけ

弥寺

水の海しりしりしり夕御涼

悠々

糖芋れあはれしきりしりあはれしり

日向

雙鳥

眼しりしりしりしりあはれしり

果声

あはれしきりしりしりしり

藤

波文

あはれしきりしりしりしり

祖馬

松翁

あはれしきりしりしりしり

大和系

あはれしきりしりしりしり

丹后

本意

後... 帰 没 葵 没 史

昔... 杜若 名 芦 名 風

常... 花 名 良

切... 草 若 蓋

古... 真 名 院

け... 梅 名 片

本... 幾 名 山

如... 麦 左 雨

細... 魯 名 岳

つ... 比 名 招

梅... 拾 名 象

竹... 代 名 方

ほ... 徳 名 翁

昔... 吳 名 公

昔... 魯 名 臺

高きうたをよめゆへらつたふらうま

山草花のまきまきわらわらうまが

居あつたふらうまのぬらうの丹

光る南かほふらうまのまきまき

ふけうまのたふらうまの二口つが

帷子のまきまきわらわらうま

野うらうまのまきまきわらわらうま

可大

定和

碩水

西馬

石糸

下托

風何

つらうまのまきまきわらわらうま

あつたうまのまきまきわらわらうま

あつたうまのまきまきわらわらうま

あつたうまのまきまきわらわらうま

あつたうまのまきまきわらわらうま

あつたうまのまきまきわらわらうま

あつたうまのまきまきわらわらうま

あつたうまのまきまきわらわらうま

能也

呂鳳

宋那

野集

多代女

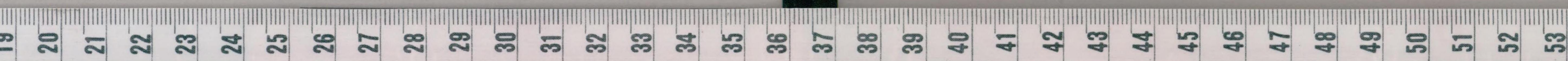
三子夜

新山

石見茶

三

三



袖をさらしとくまらけにまれば雪
はらんと新草の多き天満屋より
柿の樹ふらりと寄ればつとま
本馬よりまねて尾伐つてつら
つとつとと糸績すめりきりお月
縄暖るなり風のまねつと

冬 糸

糸 魚

糸

魚

糸

魚

物類を打てゆるはくこのとき
地あがりまきとあはれき低
るくまきれお給うちまきと
暁をけりらぬきれ笑ふ
十月のおうれ十りのあおき
残さての清れけいならぬき
栲辺ふ町まきとまきとぬきと
登りまきとまきとまきと

糸

魚

糸

魚

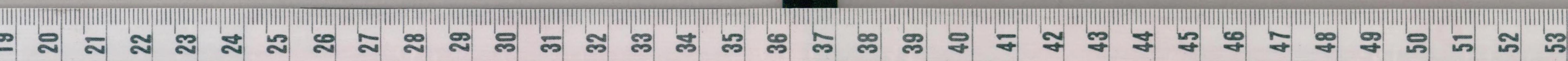
糸

魚

糸

魚

註



かきくくく 鱧の奥れりく

魚

川原ちりけく 是れちりけ

魚

ちりけく 奇哉のちれ花の 花

魚

ちりぬく 月のうは 荒 杖

魚

ちれちりちりく ちりく ちりく 合

魚

おきくく ちりちりく ちりく ちりく

魚

京菓子く ちりく ちりく ちりく

魚

鮎 ちりく ちりく ちりく ちりく

魚

ちりおちぬ ちりぬれ ちりく ちりく

魚

ちりく ちりく ちりく 桶 の 輪

魚

ちりちりく ちりく ちりく ちりく

魚

掃ちちりく ちりく ちりく ちりく

魚

ちりちりく ちりく ちりく ちりく

魚

ちりちりく ちりく ちりく ちりく

魚

ちりちりく ちりく ちりく ちりく

魚

ちりちりく ちりく ちりく ちりく

魚

五

五



吹らるる吸らるる芦の中
打たるる交るる武家此 軽口
くさみの味噛らるるけ 魚
茶抄了割る 竹伐えらるる 魚
境内のくねもたもく 魚
郭らるるきれらるるはめらるる 魚

右

本屋よりやしくぬ 雪の峰 未明
雪のけしひと 吟をよす 椽 魚
ふたまたおもく 色く橋をて 有 魚
り備やとらるる ぶれらるる 明 魚
控着れ 癖も 曲らぬ 月 の 吹 魚
あつちも 交る 前も 紫菀代 虫 節 魚

抱ひ居るもよも代終の孫あま

夏初し子等れまのし眼くやと

別まゝく人よ出合す夕葉沙

持る植木介し神をさう歩

上京と似ゆる小語介し終しく

も吟も一節し見ん庭の喜

ます月可瘡らくく代孫冷て

りくく秘法めもくねく

明

魚

帝

明

魚

帝

明

魚

古来の巻ふおれまゝく 徒館

ま記尾くくく藤の 林居る

はまの幹の別よと花れくく

夫らおれくくくあくく

常下まをくく急をくくけらく

何のねくくく記あくのくく

お位代産よ様くくくく

捨る若の子も下もくくく

帝

明

魚

帝

明

魚

帝

明

廿

廿



沿水もつりおされ 岸舟を
ふくはく 藪をまじり告ぐ 来る
然れば 土をふくも 藪木哉
影 雲く たるく 映り みる える
其に 後より 舟の 足音 鳴く
迎ひの 傘に 花を 降
牡丹 亦の 陽言も なく 月令
はら 虫は けり 時 舟 の 舟

岸 魚 明 岸 魚 明 岸 魚

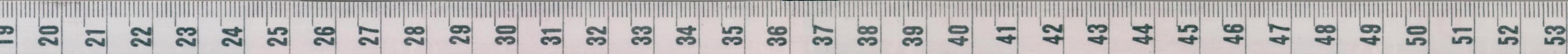
静宜行く 杖急 仙の 衣を 舞
舟へ 膳 傾く 藤の 衣を 舞
遅く 射 切く 舟を 若人 舟
あつ ち ち ち ち 花 ち ち ち
古 衣 ち ち ち ち ち ち ち
長 衣 ち ち ち ち ち ち ち

岸 魚 明 岸 魚 明 岸 魚

右

11

11



秘と記らるるは易の表意う終
らもり原月のまらよ 細 糸 魚
提然ほむれせうか 寒うけく 等 明
そららくうらふらうけちかひ
燃と終りら橋 登とらうらみ
あふれはくく 雲山 の 珠
明 魚 宝 明 魚 宝

秘の中らるるはあふは終の中
あふれはくく 依器佛の信 魚 宝
西耕の用 具おらうけ 係らる
小よ 向 龍矢まら 虫末ぬ部 宝
あふれはくく 終 魚 宝
あふれはくく 終 魚 宝
あふれはくく 終 魚 宝
あふれはくく 終 魚 宝

るし時りし成ると作山人のまゝ
草のつらきと移ふ今や梅
ら花をくらむはむゆれはるふ
投をさる 等々 一 一 一 一 一 一
明 魚 宝 明

右

田の秋をと終つて秋の恵の月 兔 冊 竹
木戸のまゝ行ふ小なれ植木畑 和 風
是れはまゝまゝに 何れは 芥の香 白 梅 亮
ゆれはるゝ風を 何れは 若葉うれ 小 梅 明
杜のまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 小 梅 三
朝のまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 白 松 菊
田のまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 白 峯 石
ふつとまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 丹 羽 人



うへう草 羊乳 二と 編 肥前 揚 糸

うへう草の 藤 二 揚 糸 大の 川 都 芝

うへう草の 藤 二 揚 糸 小の 糸 松 巨

うへう草の 藤 二 揚 糸 雨 本 二

うへう草の 藤 二 揚 糸 眉 山

うへう草の 藤 二 揚 糸 竹 交

うへう草の 藤 二 揚 糸 松 青

うへう草の 藤 二 揚 糸 希 静

後

先年梅侯翁ら生居向りの一紙子

あまひくは侍ちよはまを(家)

たまひぬを葉中のまを(家)

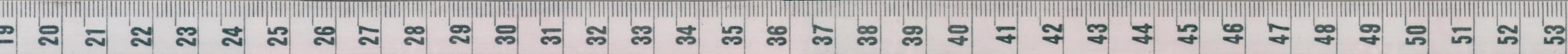
うへう草の 藤 二 揚 糸

うへう草の 藤 二 揚 糸

うへう草の 藤 二 揚 糸

うへう草の 藤 二 揚 糸

返



よめあはれは 拾ひあつて 侍共集
なるまゝく ちかちか 牛馬の ちかちか
ちかちか ちかちか ちかちか ちかちか
おのちかちか ちかちか ちかちか ちかちか
あつてあつて 梅の 枝木の 枝木の
あつてあつて ちかちか ちかちか ちかちか
あつてあつて ちかちか ちかちか ちかちか
あつてあつて ちかちか ちかちか ちかちか
あつてあつて ちかちか ちかちか ちかちか

あつてあつて ちかちか ちかちか ちかちか
あつてあつて ちかちか ちかちか ちかちか
あつてあつて ちかちか ちかちか ちかちか
あつてあつて ちかちか ちかちか ちかちか
あつてあつて ちかちか ちかちか ちかちか

ふね

お存周年



三



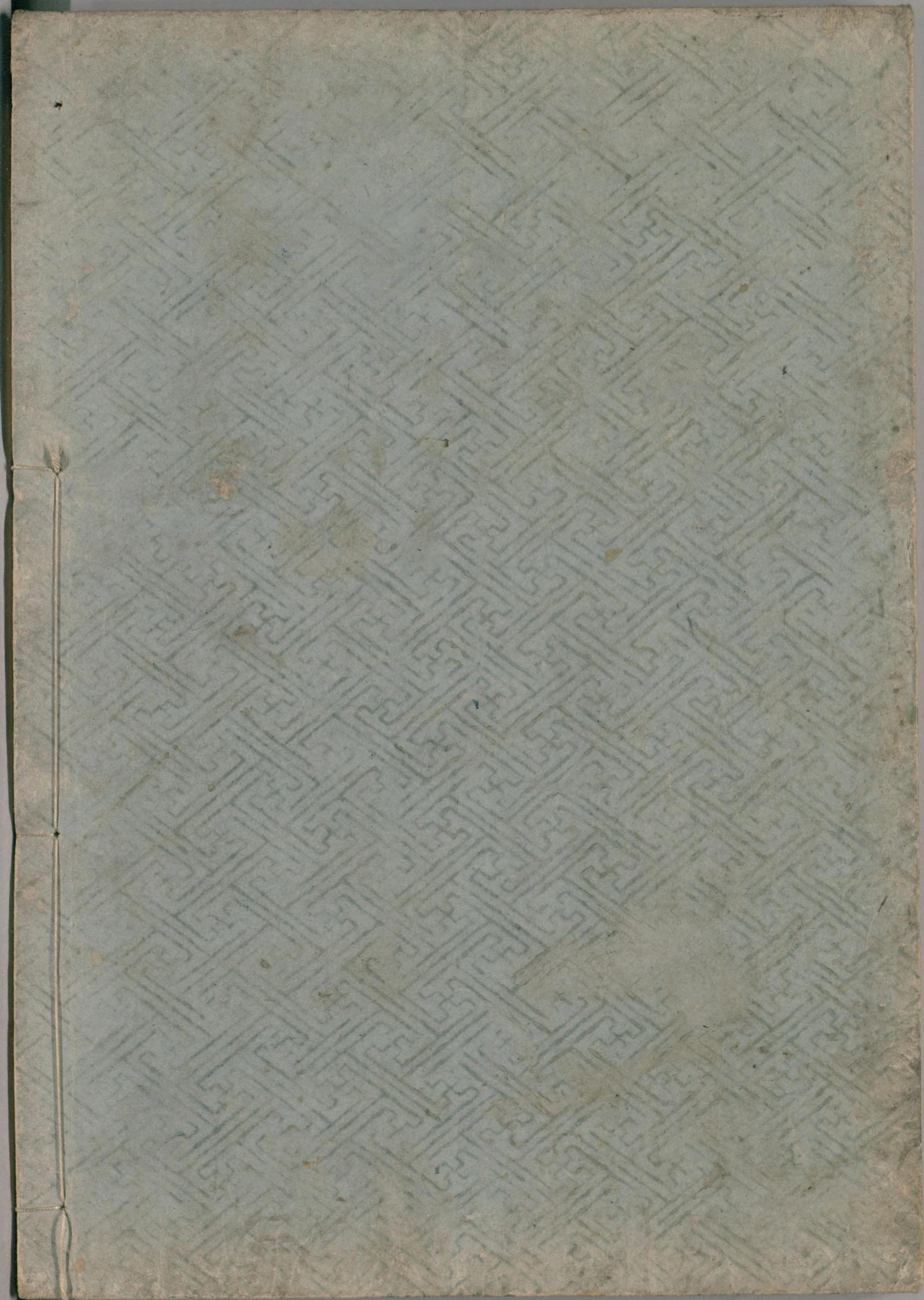
50
863
154

14261

Faint handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

枯魚堂藏板





国立国会図書館 タイトル『伝春集』 請求記号 863-154

ガラス使用